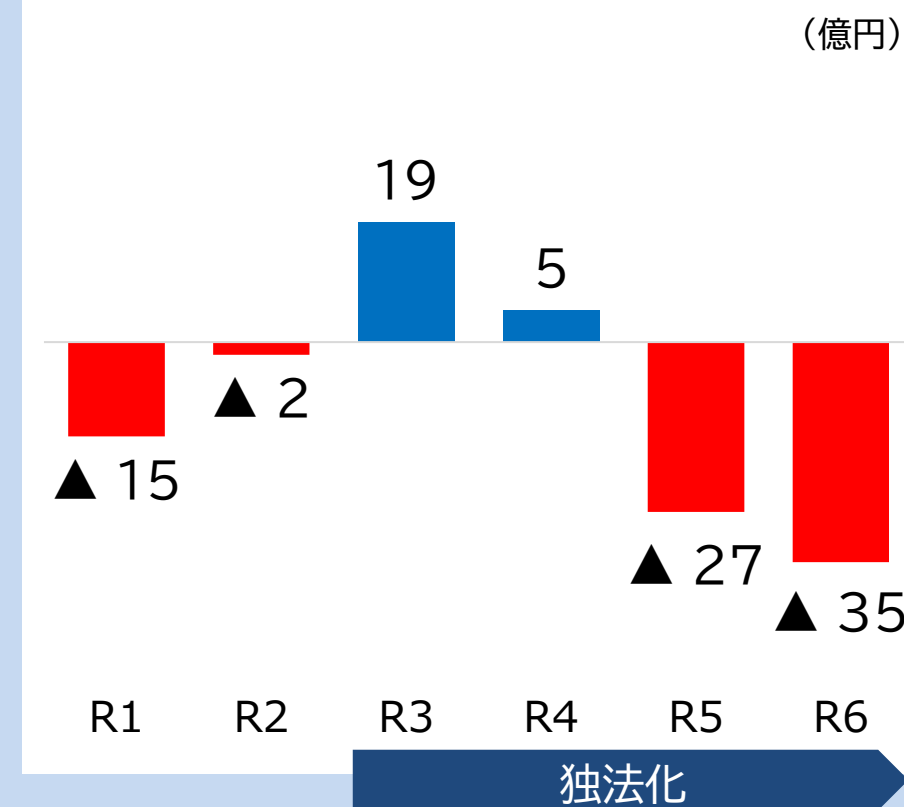


収益確保の取組により医業収益は過去最高額の490億円となった一方で、人件費や材料費など医業費用の増加により、純損益は▲35億円の赤字となった。

	令和6年度	前年度比	令和5年度
収益的収入	647億5,200万円	↑ +1.8%	635億7,900万円
医業収益	489億5,200万円	↑ +3.8%	471億5,900万円
運営費負担金収益	143億4,900万円	↓ ▲2.1%	146億5,300万円
補助金収益	2億1,800万円	↓ ▲70.5%	7億3,800万円
医業外収益	12億3,300万円	↑ +19.8%	10億2,900万円
収益的支出	682億9,300万円	↑ +3.1%	662億4,400万円
医業費用	645億9,900万円	↑ +3.2%	625億9,100万円
医業外費用	36億9,400万円	↑ +1.1%	36億5,300万円
純損益	▲35億4,100万円		▲26億6,500万円

純損益の推移

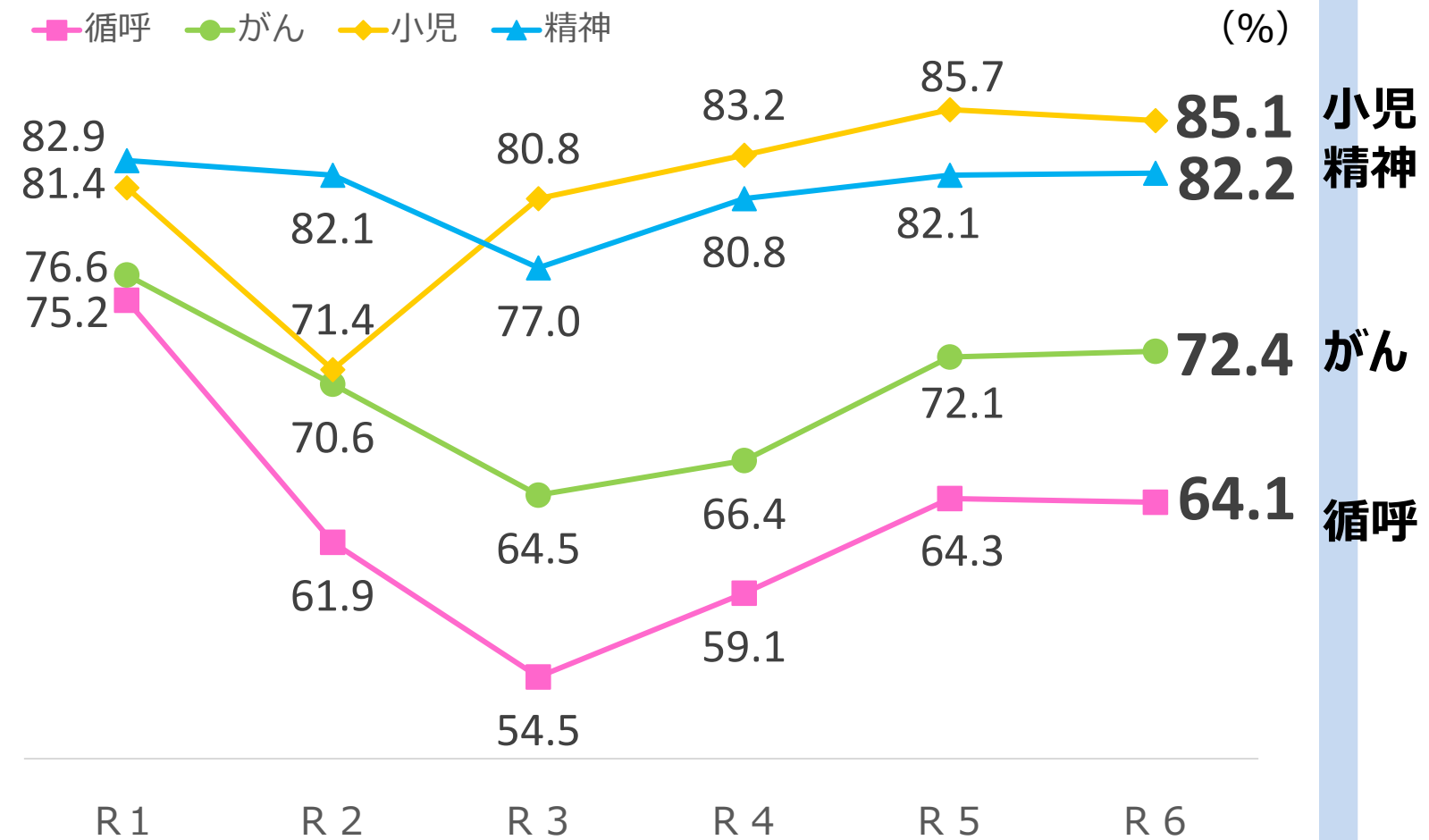
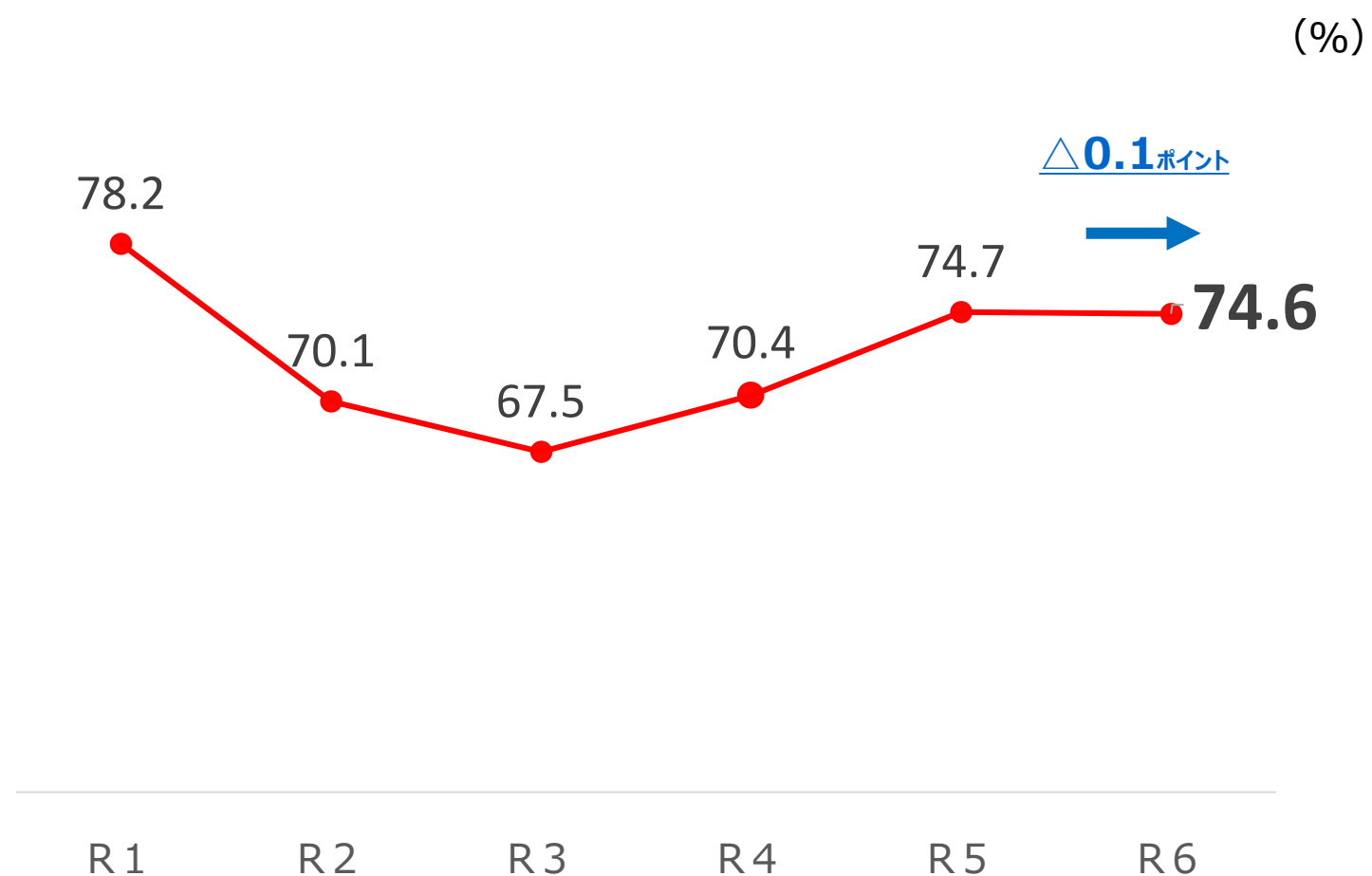


令和6年度の事業実績

4病院全体の病床利用率は74.6%と横ばい
→病院別では、循・呼センター、がんセンターはコロナ禍前の水準に戻っていない

4病院全体

病院別



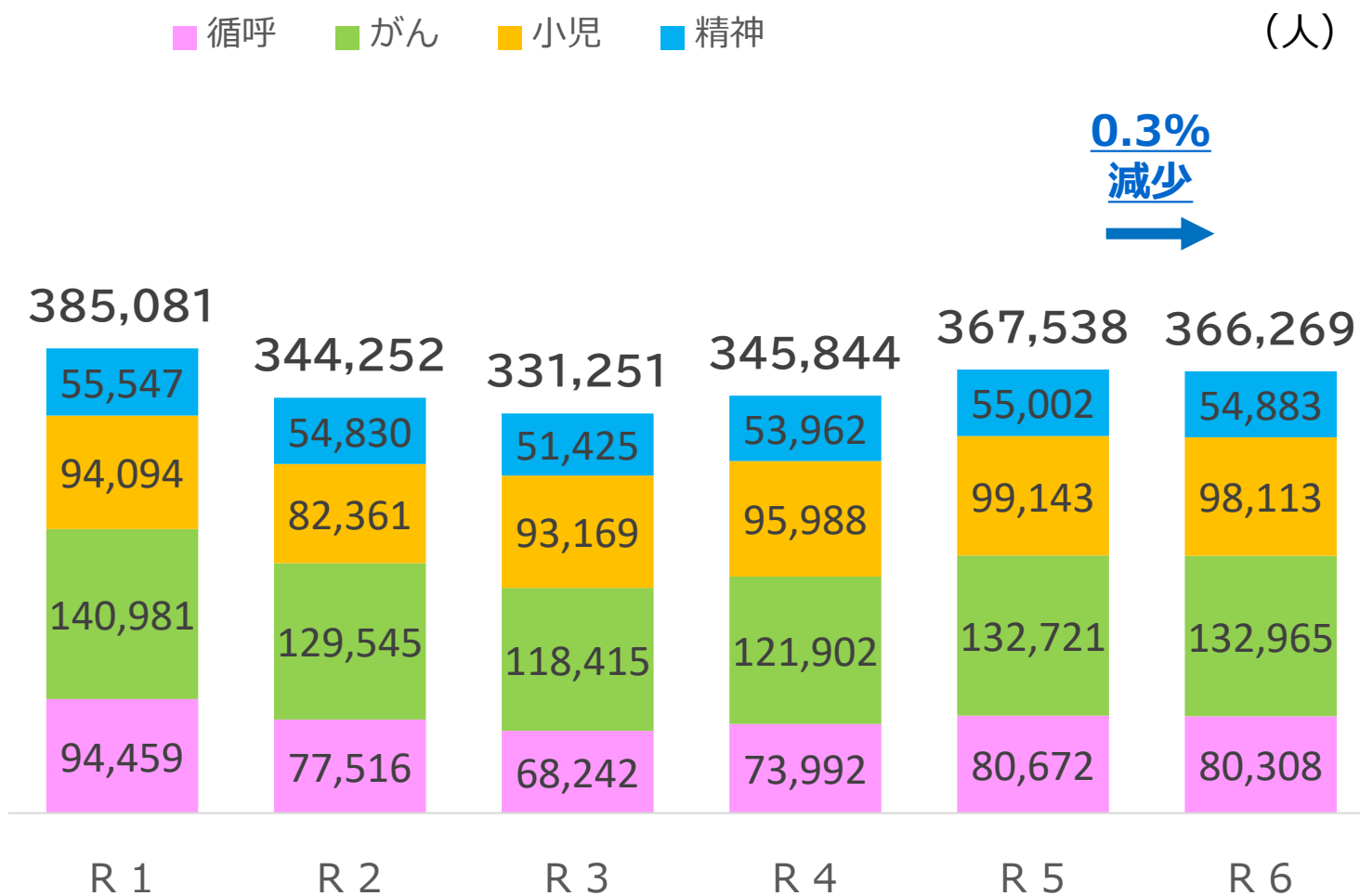
独法化

独法化

令和6年度の事業実績

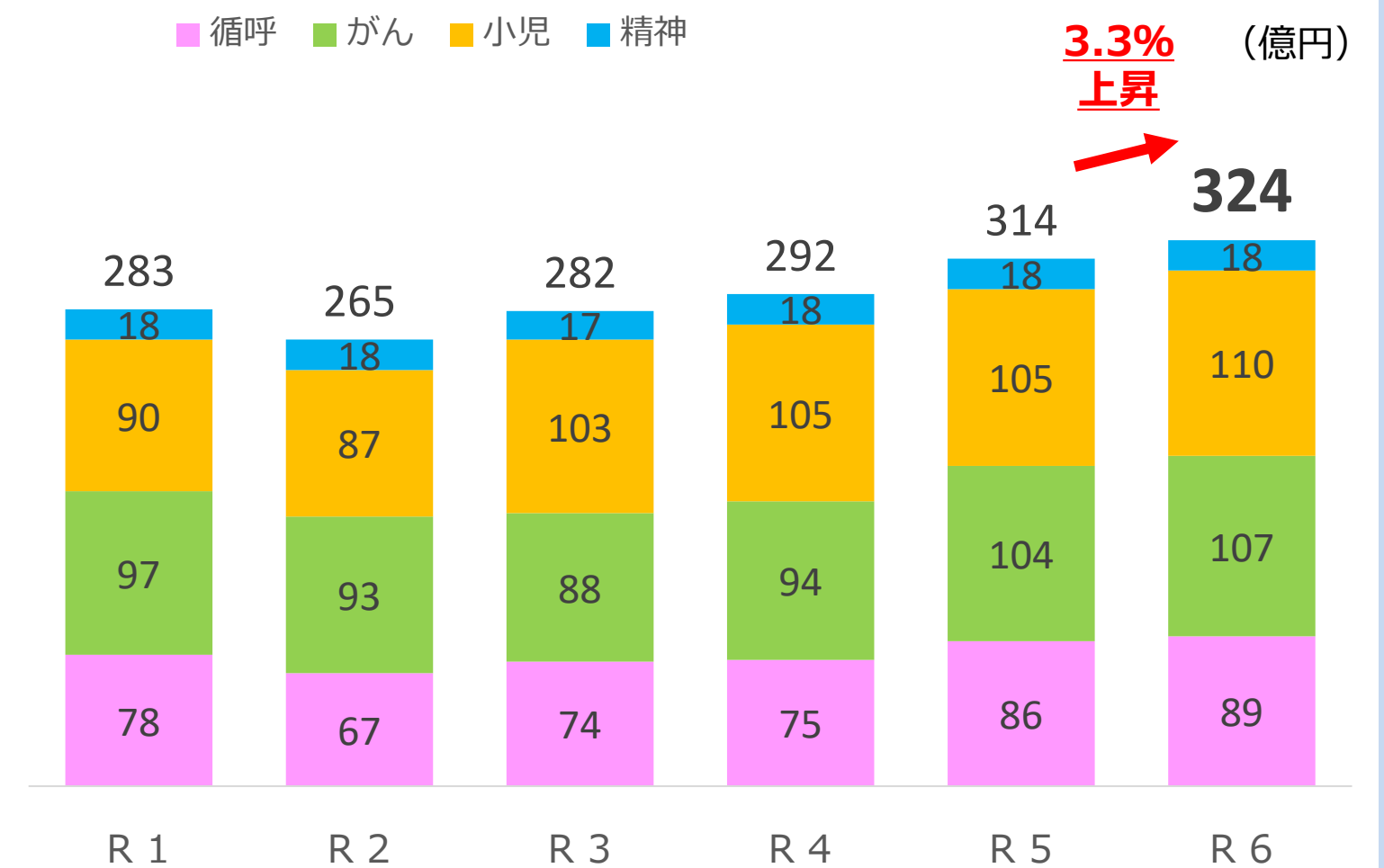
延べ入院患者数は0.3%の減でほぼ横ばい、入院収益は324億円(+3.3%)と増収
 → 循・呼センター、がんセンターの入院患者数はコロナ禍前の水準に戻っていない
 → 入院収益は入院単価の増により上昇

延べ入院患者数



独法化

入院収益



独法化

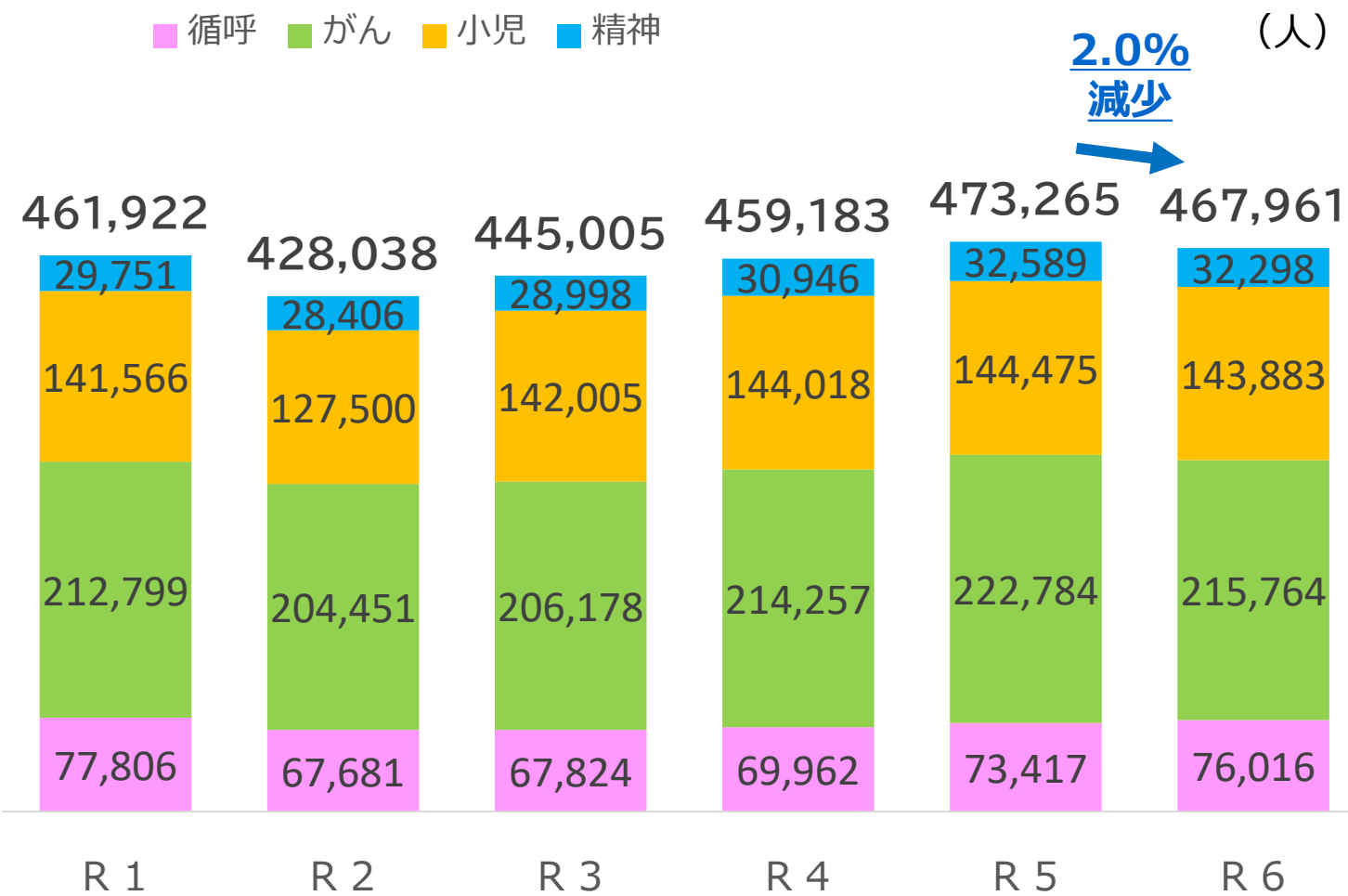
令和6年度の事業実績

延べ外来患者数は2.0%の減、外来収益は150億円(+2.9%)と増収

→循・呼センター以外で外来患者数が減少

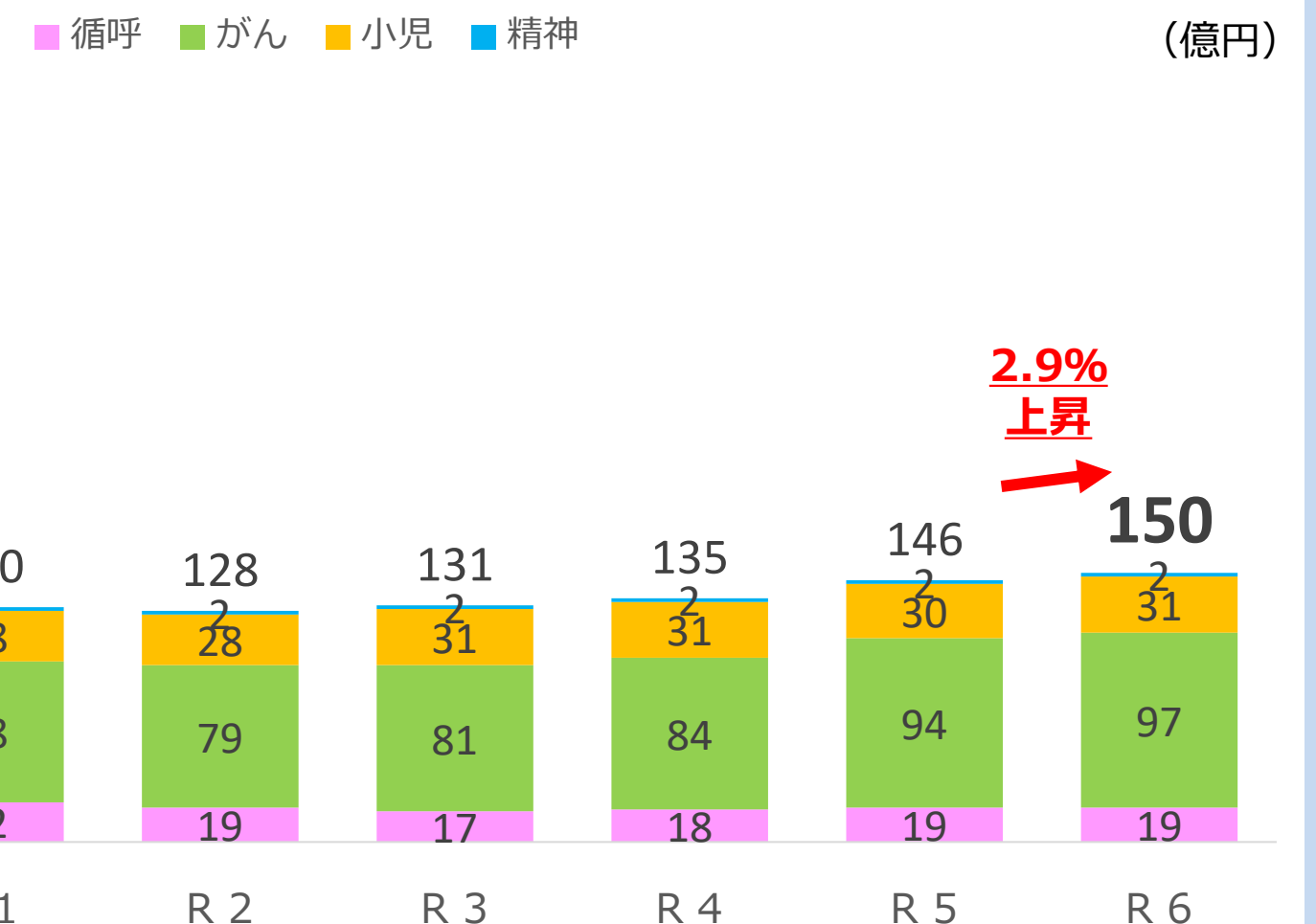
→外来収益は高額薬品等の使用による外来単価の増により上昇

延べ外来患者数



独法化

外来収益

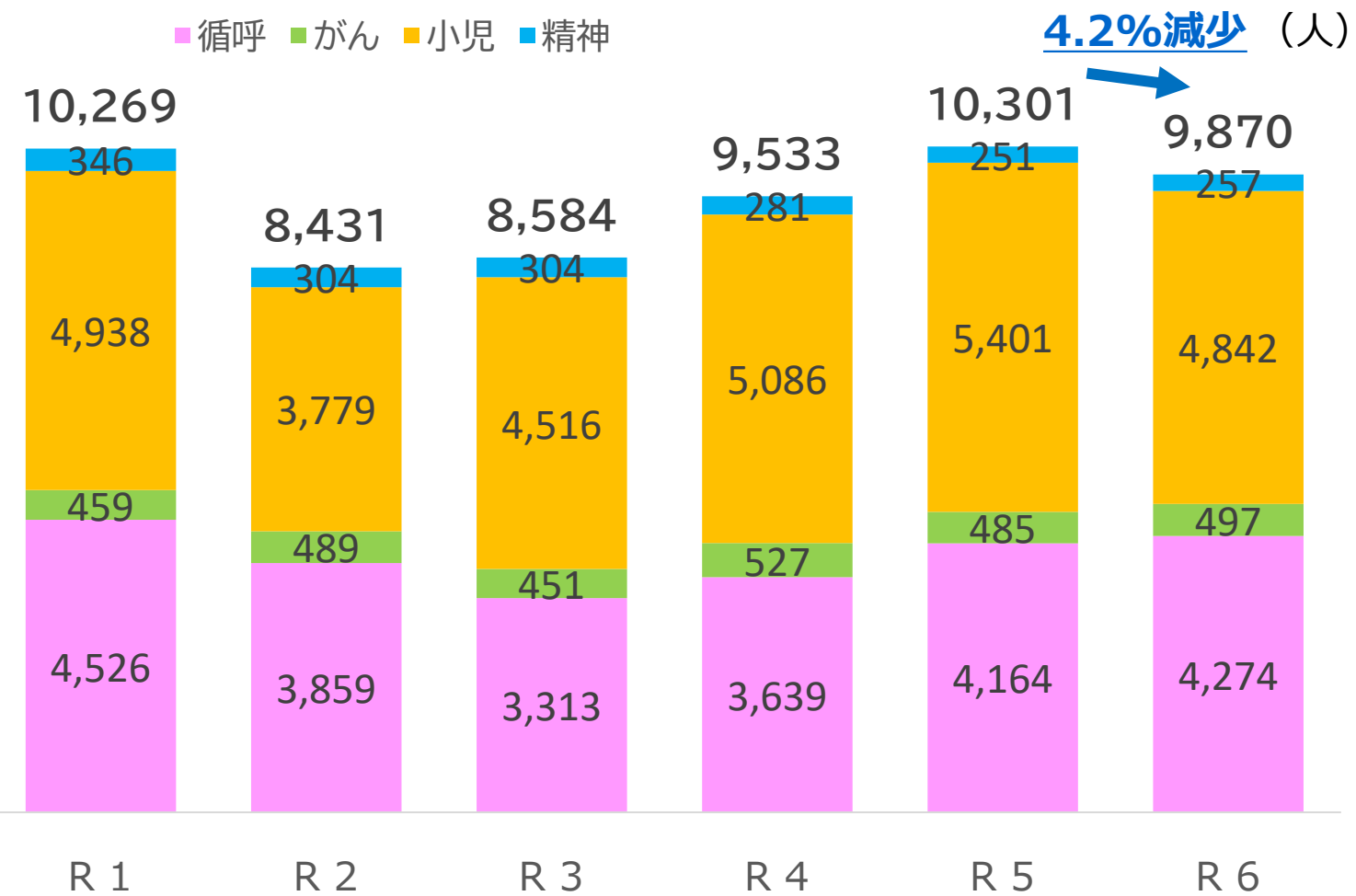


独法化

令和6年度の事業実績

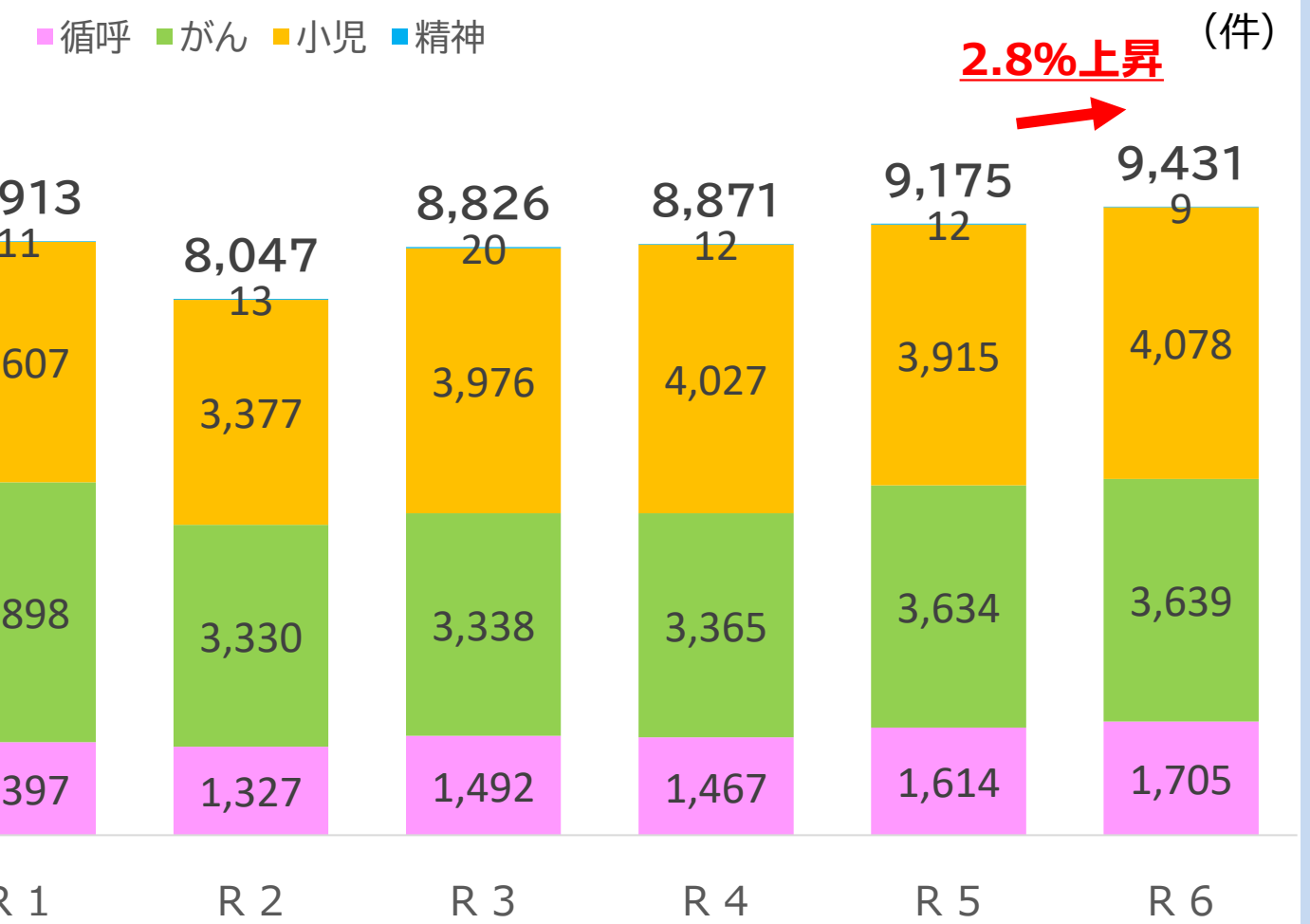
救急患者は4.2%の減、手術件数は2.8%上昇
 →小児医療センターの救急患者数が減少
 →循・呼センター、小児医療センターの手術件数が上昇

救急患者数



独法化

手術件数

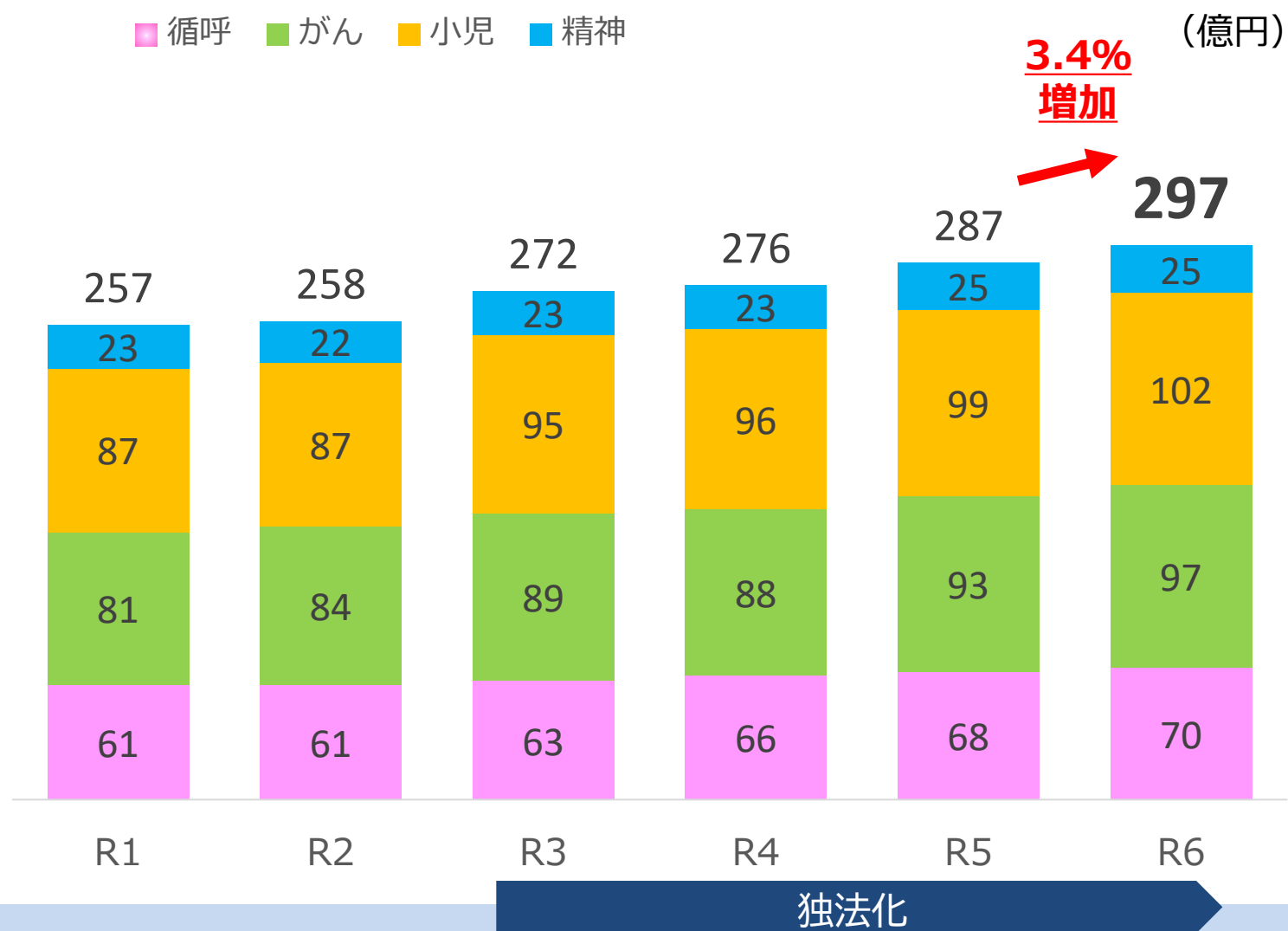


独法化

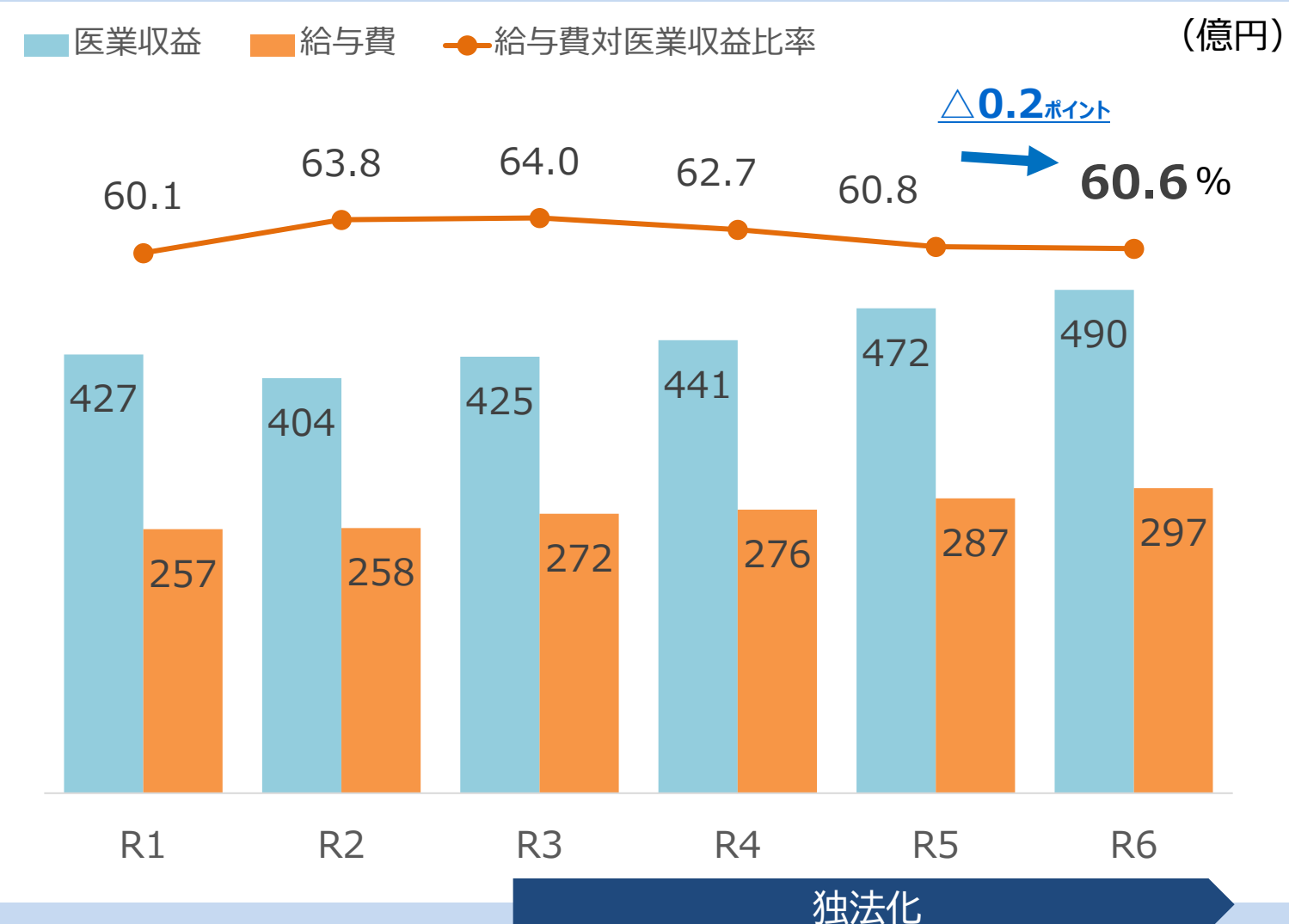
令和6年度の事業実績

給与費は10億円増加(+3.4%)、給与費対医業収益比率は前年度から0.2ポイント改善
→増加分のうち給与改定による影響額は約8億円

給与費



給与費対医業収益比率

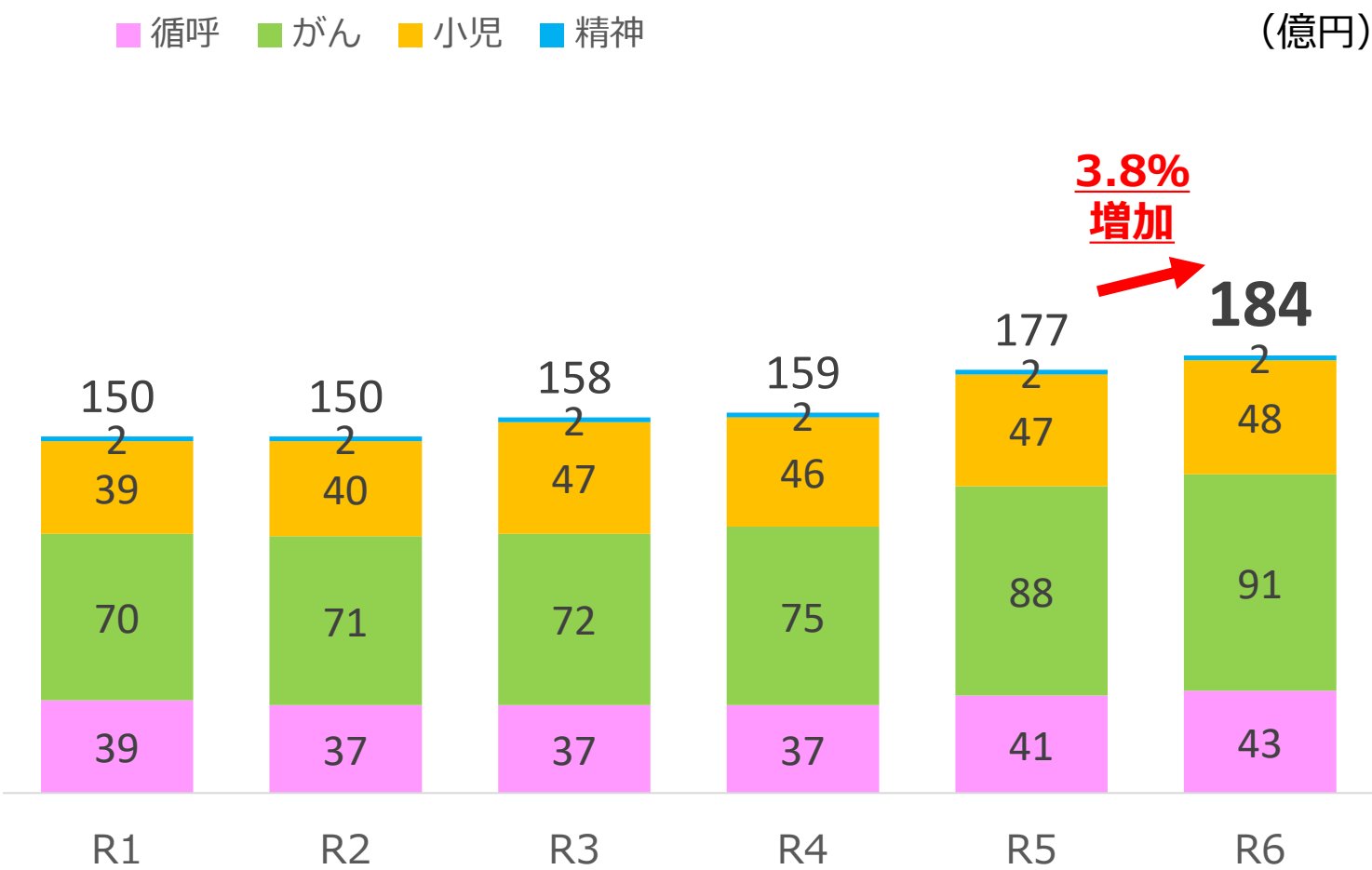


※ 合計値には病院機構本部の給与費を含むため内訳と一致しない

令和6年度の事業実績

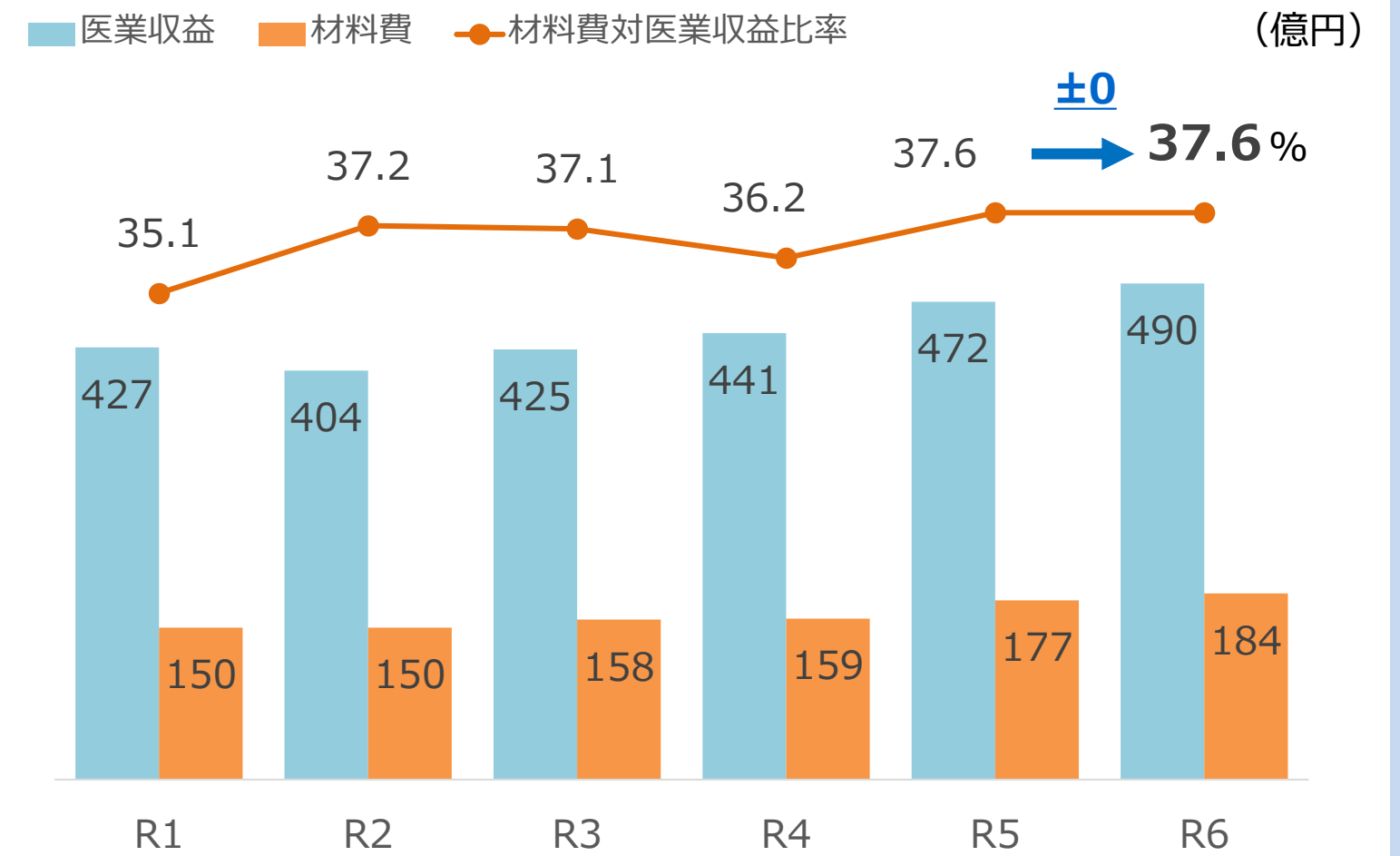
材料費は7億円増加(+3.8%)、材料費対医業収益比率は前年度と同じ37.6%で高止まり
→高額な抗がん剤等の薬品費、物価高騰の影響による診療材料費等の増

材料費（薬品、診療材料等）



独法化

材料費対医業収益比率



独法化